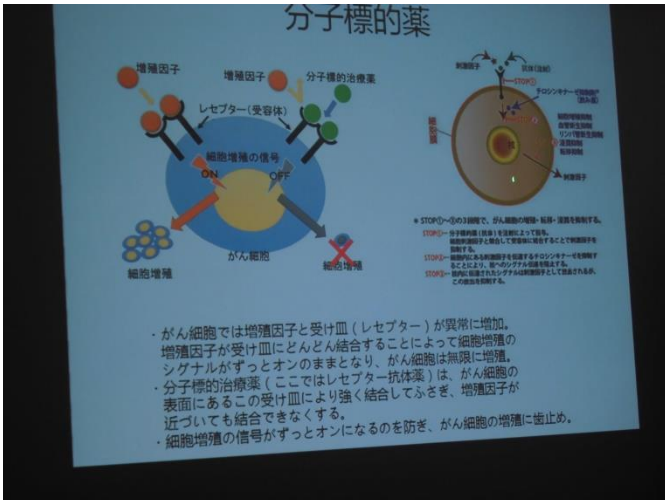
教育研修

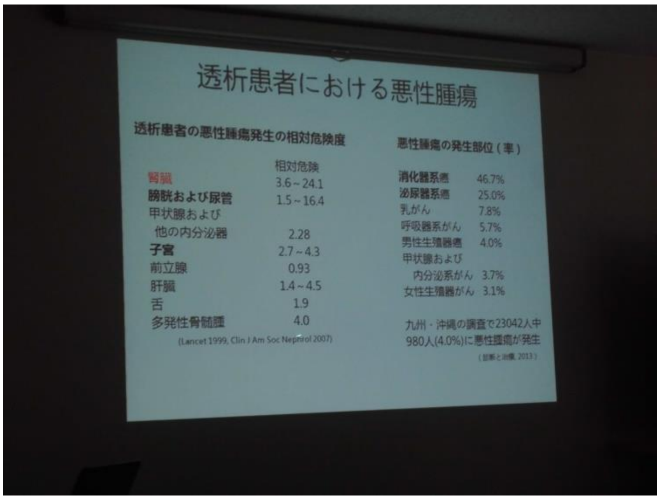
日時：H30 年 8 月 28 日（火）　１7 時より開始

場所：新王子病院　4F　会議室Ａ

症例：島○　○氏　71 才　男性

講師：JCHO 九州病院腎臓内科　田村　泰久先生





透析症例では悪性腫瘍の中でも腎がんの発症頻度は一般人口に比べ極めて高く、嚢胞との鑑別が難しく発見が遅れることがある。また、治療も一般患者と比べ、免疫が低下しているため合併症や副作用が出やすい状態である。今回の症例である島○氏においても、抗がん剤の治療にて癌は縮小傾向であったが間質性肺炎合併し、ステロイド治療に切り替えることとなった。当院でも初めての症例でもあった。透析患者は悪性腫瘍を発生するリスクが大きいことから、日々の状態の変化に注意して観察していきたいと感じました。